

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告

市町村名	課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数 値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
06209長井市	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	児童生徒がより広い視野を持ち、主体的に学ぶため、教科指導等における地域人材の確保や連携が課題。	本事業のメニュー（地域未来塾や放課後子ども教室など）をフルに活用し、地域の人材を活用してきた。	引き続き市内各小中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、地域の人材活用、新たな人材の発掘に取り組む。	子どもの学力や社会性の向上に資するとともに、地域あげての子育て意識の向上を図ることができる。	地域に開かれた教育が実施できていると感じる保護者の割合	95	%	96	92	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 長井市内には6地区それぞれに小学校があり、それぞれの独自の文化をもって活動をしている。推進員は地域と学校の架け橋となってもらっており、活動に参加できるボランティア（サポーター）への声かけを行う事で、地域が学校に関わっていくきっかけとなっている。ただし、今回3ポイントの減として関わってもらえるボランティアの方の高齢化が進んでいる他、退職年齢が上がっていることで、仕事を抱える方が増え、活動への協力が得られない状況がある。来年度に向けて各地区のコミュニティセンターの人脈を生かした声かけを行う事で、地域行事、学校行事の有効活用に向けて体制をつくり、より一層地域と学校の活動を地域の子どもたちへ反映できるようにしていく。
06209長井市	②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	子どもの減少、コロナ禍により、子どもたちの内向的な傾向が進み、地域活動にもなかなか出てこなくなっている。	コロナ禍後、学校運営協議会等で協議し、子どもが参加できる行事をようやく再開できた。	各学校の運営協議会での議論（今後の取組への展望）として、学校支援ボランティアの確保とともに、学校を舞台とした地域活動を子どもに見せる、一緒に活動するなどの工夫を施す。	地域活動を通して地域の大人と触れ合うことにより、子どもの社会性の向上に資するとともに、地域あげての子育て意識の向上、学校を舞台とした生涯学習事業の展開を図ることができる。	地域行事へ子どもたちが参加していると感じる保護者の割合	85	%	86	83	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる 放課後子ども教室などの活動がコロナ前に戻り、活動が増えた。活動は増えたが、子どもと関係者だけの活動となり、評価する保護者の参加が増えていない。学校と地域とのかかわりの中で、保護者が評価しやすい活動として同教室が挙げられるため、周知を図っていくと共に、さらに地区コミュニティセンターや学童と連携を行い、更なる活動の工夫を行っていくことで指標達成を目指した。しかし、冬に発生したインフルエンザや大雪の影響で、年度の最終評価時期に開催出来ないこともあったことから実績値は減となっている。以上を踏まえ、開催時期や内容の見直し、また今後は学童とのさらなる連携を視野に保護者への周知を図っていく。